



加じき

広報

全ご家庭に、もれなく配布

第162号

45. 1. 10 発行

発行 鹿児島県始良郡
加治木町役場
編集 総務課
印刷 吉屋印刷所

睦月

(むつき)

みなさま、よい新年をお迎えのことと存じます。一月は睦月、年の始めの月として、一家はもちろん、となり近所の人がお互いに、むつみあう月ということから、この呼び名が生まれたものでしょう

か。

あわただしかった師走総選挙も終え、いろいろな話題の中で七〇年代への第一歩を踏み出しました。一九七〇年という年は、好むと好まざるとにかかわらず、あらゆる意味で重要な年といえましょう。私たちをとりまく社会情勢を、はっきりと見つめ、しっかりと生活計画をたて、

心がまえをきめましょう。

正月七日に、七草を入れた^ッかゆ^ッを食べる風習が残っています。正月料理で七草がゆが持つ独特の野草のかおりは、私たちのからだに、なんとなく素ぼくで味わいのあるスッキリとしたものを覚えさせます。



「なな草ズシ」を食べて、みんなで記念撮影…… (須崎にて)

新年のごあいさつ

町長 曾 木 隆 輝

一九七〇年の夜が明けました一年中いろいろな事件、出来ごと、問題を歴史の中に送り込みました。実にあわただしい年でした。人類の月着陸があると思えばここでは風水害が起り、大学問題が騒々しいと感じているうちに、十三塚原の空港は地元と話しがつく。沖繩復帰の目途がついたら国会解散から総選挙と国の内外、交換きわまりない三百六十五日でした。

活も各種各様の変化が、おありになったと思います。しかし、お健やかにご越年なさったことを先ず、およろこび申し上げます。ただ病床におありのかたもおありですが、本年はよい年でありますように、お祈りします。さて空港、関連道路、港湾とつぎつぎに建設が始まり、日豊線の電化復線化運動や川内方面国分方面から加治木への道路建設の動きも盛んになり、加治木町民のみなさんの公私のご生

きな一歩となります。これに加えて、各種各様の住宅も作られ建設関係者も入り込まれる見込みで、商業も一段と活気が加わるでしょう。むつかしい農業も新時代に応じた形で伸びること期し、町民の加治木町の躍進の年であらしたいと思えます。ここで一工夫が必要というものです。

みなさんが、昨年中およそくだされたご協力のおかげで、明るい正月を迎えられた町当局は感謝のまこととをささげながら、新年度にみなさんとともに、発願と、しあわせを求めて努力しますことを誓って、ごあいさついたします。

成人と国民年金

この機会に加入しよう

一月十五日は成人の日です。この日は「おとなになったことを自覚し、みずから生きぬこうとする青年を祝い励ます日」として、全国各地で二十歳になった人びとを祝う成人式が、盛大に催されました。

二十歳になると、その日から成人として多くの権利が与えられ、義務が課せられますが、国民年金に加入することも、その一つです。

国民年金制度は、政府の行なう年金制度の一つで、年をとったたりけがをしたり、一家の働き手が死亡したりしたときに、老齢年金、障害年金、母子年金などを支給して、本人やその家族の生活を保障しようとする制度です。年をとったり、けがや死亡したりしたときに備えて、加入者全員が前もって保険料を積みため、さらに国も保険料の半額を負担しています。

わが国には、この国民年金のほか、厚生年金保険、船員保険、各種共済組合などの、九つの年金制度がありますが、昭和三十六年から国民皆年金制度が確立されてから、国民は必ずどれかの年金制度に加入するたて前になつてい

発達していかなかった過去の考え方に基づくもので、今では、もった年金のことについて知りたい、教えてほしいという人たちが、どんどんふえてきています。

今は元気で働いていても、やがては年をとって働けなくなるときがやってきます。それに生活環境が改善され、医療技術が進歩するにしたがって、国民の平均余命が驚くほど伸びているので、今から老後の生活を考え、準備しておくなくてはなりません。

また、将来の老齢年金のためばかりでなく、最近では交通事故による障害が非常に多くなっています。いつ、どこで、どのような事故にあうか、わかりませんが、事故が起きてからでは間にあいません。このようなときにも、加入しておれば障害年金をうけることによつ

て、安定した生活ができますので必ずしも遠い将来の問題とばかりいえないものと、なつてきております。

名実ともに、社会人としてスタートする「成人の日」を機会に、国民年金制度の必要性をよく理解し、これからの生活設計に役立てていただきたいものです。

二十歳になつて国民年金に加入しなければならない人で、まだ加入していない人は、加入することが本人自身にとつて、非常に利益になることですから、今すぐ、町役場の窓口で、加入の手続きをしてください。

また、昼間部の大学生でも二十歳以上であれば、希望して加入できますから、この機会に加入することを、おすすめします。

明治三十九年四月二日から
明治四十四年四月一日までの間に生まれた人で、国民年金制度が発足した昭和三十六年四月に任意加入していない人は、もう一度

高齡任意加入の再開

任意加入する
このように高齡任意加入することができ
ます。これが最後のチャンス
です。

◆加入期間 五年間
◆保険料の額 月七百五十円
◆年金額 加入期間の五年間を過ぎると月二千五百円の年金を受

◆申出期間 昭和四十五年六月末日まで。
このように高齡任意加入することができ
ます。これが最後のチャンス
です。

◆わしいことは、町役場窓口の国民年金係でおたずねください。六月末日ですが、一日でも早く加入すると、それだけ得をします。

町内美化運動——錦江第三地区

手初じめに川の清掃

自治会長・婦人会長さんが奉仕



「お互いに川を、もっと大事にしてほしい」

「町内美化運動」は、かけ声だけでなく、まず実行を——と、さる十二月十四日の日曜日、錦江第三地区の宮田実地区公民館長をはじめ、地区内の六部落の自治会長、婦人会長さんら十四人は、「道路ぎわを流れる川がきたないのは、見苦しく、また地区内に住む者の大きな恥だ。かけ声ばかりでなく、先ず、わたしたちが真つ先に実行しよう」と、地区内を流れる二つの川の清掃を行いました。

洗たく機が普及していないころは、みんなこの川へ洗たく物を持ち寄って、よく洗たくをしたものです。あのときの水は、とてもきれいでした。

加治木ロータリークラブ（会長 岩沢光男）では、事業計画の一つとして、本町にボイスカウトをつくることにして隊員の募集などいろいろ準備をすすめていました。その準備が整い、さる十二月七日（日）結団式を柁城小講堂で行ないました。

本町のボイスカウトは、日本ボイスカウト鹿兒島県連盟、始良第三団、第一・第二少年隊として、正式に登録、認定されました。ボイスカウトは、世界のお友だちと互いに手をとりあって友情を深めながら、規律を守り、一日

と、話していました。この地区を流れる二つの川は、こうして自治会長さんや婦人会長さんらの奉仕によつて、きれいになり、道ゆく人もたちどまり、川の中や堤防のゴミや空ビンなどを寄せ集める、この十四人の人たちに、ねぎらい

のことばをかける風景も見られました。町内美化運動は、このように地区や部落、隣り近所が率先して、自分の家のまわりや道路、川などを自分たちの手できれいにし、チリやゴミを捨てないようにしようとする目的で、発足したものです。

農林省は、昭和四十五年二月一日現在で、全国のすべての農家、林家を対象とし、またすべての農家集落（部落）を対象として、「一九七〇年世界農林業センサス」を実施します。

2月1日世界農林業センサス
調査員に
ありのままを
正確に

ボイスカウト誕生

加治木ロータリークラブがつくる

一日の生活の中で奉仕と人類の平和、友好の人間性を養うための、誇りある、名譽のある団体であります。

始良第三団は、第一隊二十四人は加中七人、柁城十八人、錦江十八人、竜門一人の計四十四人で編成されています。

隊員は、日本山の精矛神社の境内で訓練をうけています。まもなく、いろんな機会に、少年団のきびきびした奉仕活動が、みなさんの目にふれることと思います。

一九七〇年の世界農林業センサスが、有意義に正確な統計資料となるよう、関係農林業家のご協力を、お願いします。

オレンジ学園へ

たくさんのオムツ

町婦人会が贈る

町婦人会では、からだの不自由なため、床にいたままの療養生活を続けているオレンジ学園（福山町）の子どもたちのために、今年度もたくさんのオムツを贈りました。

つそく部落の会員に話してオムツ集めをしたのが、きっかけとなり、今では町内の全婦人会に広がり、会員二千三百人の心のこもったプレゼントとなって、毎年こうしてオレンジ学園に贈られているものです。

このオムツを贈る運動は、数年前、岩原の婦人会員が、たまたまこのオレンジ学園を訪れたとき同園の職員から、日にたくさんのオムツが必要なのに、そのオムツに大変困っていることを聞き、さ

今度も予想以上のオムツや衣類などが寄せられ、公民館の一部屋に、うず高く積みむほどの量となっていました。この中には、まだ全然手のつけないオムツや着も

の何点かあったということで、婦人会役員も、この暖かい贈り物にホロリとした、ということです。自動車で受取りに来た同園の職員は「みなさんがたの心のこもつ

た贈り物を、こんなにいっぱい、いただくことができ、ほんとにありがたいことです」と話していました。オムツで、いっぱいになった車



車に積み込む会員たち

随 想

年賀状

曾木隆輝

元日、ドツと投げ込まれた年賀はがきに、夜分一枚一枚目をとおすのは、楽しいものだ。虚礼だから、あんなものはやめてしまったら！という説も一応うなずける。それは出すのが面倒くさいし、十二月は忙しくて、なかなかゆつくり書く暇がないからでもある。またとくに、最近郵便番号

まで探して書かねばならぬ、うるささもあるからという。それでも、もらった方は、ただ業務上のは別としても、何年も会わない知人や、むかし世話をしたり、なった人たちが

の返礼には、横文字を書くのがオククだ。書けぬわけでもないが、つい、あとまわしになって、せっかく送ってくれた好意に無頓着で、はなはだ申しわけないことが多い。

が、貴重な人間同志のコムニケーションだ。私には虚礼とのみは感ぜられない。恐らくどこかで行き会っても、お互い気づかずじまいの相手でも、気脈は、はがき一本で何年も何年も、つながっているであろう。

いつか全然、知らぬ関西の人が、町民のかたの娘さんの身元をきいて来て、よく返事しておいたら、この人から、自分の一人息子と結婚させ、孫が出来たと、うれしい便りの賀状もあつた。

みな幸せな一年でありたい。

編集後記

▼…みなさん、明けましておめでとうございませう。新春第一号として、広報かじき第百六十二号をおとどけます。

▼…ことしも、町や地区、部落などの催し、行事、耳あたらしいものなどおりませながら、町民のみなさんがたのご協力を得て、よりよい町広報紙としたいものだと考えています。

▼…広報紙の内容についてのご意見、ご希望など、お寄せください。地区、部落からのニュースの提供をお待ちします。(向)

今月は ◀◀◀◀◀
 町県民税 第4期分
 国保税
 ▶▶▶ の納期です

の中に、ほんのすき間を見つけては、「一枚でも多く持って行つてください」と、オムツを押し込む婦人会員の姿も見られました。

わたしたちも、この婦人会の運動に、これからも機会あるごとに協力し、オレンジ学園で療養している恵まれない、からだの不自由な子どもたちが、一日も早く元気になるよう、みなさんとともに祈りたいものです。